

11:25 イエスは言われた。「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。

11:26 また、生きていてわたしを信じる者は、決して死ぬことはありません。このことを信じますか。」

11:27 彼女はイエスに言った。「はい。主よ。私は、あなたが世に来られる神の子キリストであると信じております。」

11:28 こう言ってから、帰って行って、姉妹マリヤを呼び、「先生が見えています。あなたを呼んでおられます」とそっと言った。

11:29 マリヤはそれを聞くと、すぐ立ち上がって、イエスのところに行った。

11:30 さてイエスは、まだ村に入らないで、マルタが出迎えた場所におられた。

11:31 マリヤとともに家にいて、彼女を慰めていたユダヤ人たちは、マリヤが急いで立ち上がって出て行くのを見て、マリヤが墓に泣きに行くのだろうと思い、彼女について行った。

11:32 マリヤは、イエスのおられた所に来て、お目にかかると、その足もとにひれ伏して言った。「主よ。もしここにいてくださったなら、私の兄弟は死ななかつたでしょうに。」

11:33 そこでイエスは、彼女が泣き、彼女といっしょに来たユダヤ人たちも泣いているのをご覧になると、霊の憤りを覚え、心の動揺を感じて、

11:34 言われた。「彼をどこに置きましたか。」彼らはイエスに言った。「主よ。来てご覧ください。」

11:35 イエスは涙を流された。

11:36 そこで、ユダヤ人たちは言った。「ご覧なさい。主はどんなに彼を愛しておられたことか。」

11:37 しかし、「盲人の目をあけたこの方が、あの人を死なせないでおくことはできなかったのか」と言う者もいた。

11:38 そこでイエスは、またも心のうちに憤りを覚えながら、墓に来られた。墓はほら穴であって、石がそこに立てかけてあった。

11:39 イエスは言われた。「その石を取りのけなさい。」死んだ人の姉妹マルタは言った。「主よ。もう臭くなっておりましょう。四日になりますから。」

11:40 イエスは彼女に言われた。「もしあなたが信じるなら、あなたは神の栄光を見る、とわたしは言ったではありませんか。」

11:41 そこで、彼らは石を取りのけた。イエスは目を上げて、言われた。「父よ。わたしの願いを聞いてくださったことを感謝いたします。

11:42 わたしは、あなたがいつもわたしの願いを聞いてくださることを知っておりました。しかしわたしは、回りにいる群衆のために、この人々が、あなたがわたしをお遣わしになったことを信じるようになるために、こう申したのです。」

11:43 そして、イエスはそう言われると、大声で叫ばれた。「ラザロよ。出て来なさい。」

11:44 すると、死んでいた人が、手と足を長い布で巻かれたままで出て来た。彼の顔は布切れで包まれていた。イエスは彼らに言われた。「ほどいてやって、帰らせなさい。」

## はじめに

コリント第一 13:13 こういうわけで、いつまでも残るものは信仰と希望と愛です。その中で一番すぐれているのは愛です。

いつまでも残るものとして挙げられたたった 3 つのものの中に希望が入っています。ここから、神が希望をどれだけ重視しておられるかがわかります。それで、みことばのもっとも素晴らしい約束のひとつに希望を含めておられるのです。

エレミヤ書 29:11 わたしはあなたがたのために立てている計画をよく知っているからだ。——【主】の御告げ——それはわざわいではなくて、平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。

また、もうひとつの聖書箇所もなぜ希望が私たちにとってそれほど大切なのかを詳しく教えてください。

ヘブル 6:19 この望みは、私たちのたましいのために、安全で確かな錨の役を果たし、またこの望みは幕の内側に入るのです。

嵐のときに船が漂流しないようつなぎとめて守る錨のように、希望は人生の嵐の只中で私たちをつなぎとめて守ってくれます。それで、神の武具の中では「かぶと」と呼ばれているのです。

テサロニケ第一 5:8 しかし、私たちは昼の者なので、信仰と愛を胸当てとして着け、救いの望みをかぶととしてかぶって、慎み深くしていきましょう。

イエスにある永遠の救いの希望です。イエスは、よみがえりでありいのちです。このよみがえりという生ける希望が、キリスト教の教えの核心です。

コリント第一 15:14 そして、キリストが復活されなかったのなら、私たちの宣教は実質のないものになり、あなたがたの信仰も実質のないものになるのです。

ここで使徒パウロは、もし復活がなかったなら、「私たちの宣教は実質のないものになり、あなたがたの信仰も実質のないものになるのです。」と言います。

コリント第一 15 章は 58 節まで全体が復活の詳しい説明です。その箇所が、「15:58 ですから、私の愛する兄弟たちよ。堅く立って、動かされることなく、いつも主のわざに励みなさい。あなたがたは自分たちの労苦が、主にあってむだでないことを知っているのですから。」と締めくくられているのは興味深いポイントです。

今日の聖書箇所、イエスは「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。」とおっしゃいました。今日、ヨハネ 11 章から他にも非常に大切に尊いことを学ぶことができます。

### **1. 神の沈黙。神が冷たく（無関心に）思える時。（5-6 節）**

この一家は、イエスの親しい友人でしたが、一番いてほしいときにイエスはその願いに応えませんでした。

11 章を読むと、5 節と 6 節が矛盾するように思えます。イエスがこの一家を愛しておられたなら、助けを求められた時にすぐに応答されるはずだと私たちは思います。けれども、数日間イエスは動かれませんでした。私たちは、イエスが彼らのもとに急いで行かれなかったのはおかしいと思うかもしれません。それは、私たちが神のご計画の一端しか見えていないからです。自分の願うタイミングで神に働いてほしいと私たちは思うのですが、神はそうなさいません。

4 節で、イエスは知らせに驚いておられません。そして、弟子たちに、「この病気は死で終わるだけのもではなく、神の栄光のためのものです。神の子がそれによって栄光を受けるためです。」と告げられました。イエスの親しい友人の病気と死は、イエスの生涯に込められた神のご計画における非常に大きな出来事でした。この一件以来、ユダヤ教指導者たちは緊急会議を開いてイエスを十字架刑に処すことを決めたのです。(50 節) イエスの十字架刑は、世界の歴史上もっとも重要で、この重大事が世界史の中心です。そして、11 章の出来事がイエスの十字架刑の引き金となったのです。これはすべて詳細にわたるまで計画され、もっとも適切な時に起こりました。これまでイエスはよく、「わたしの時はまだ来ていない」とおっしゃっていましたが、イエスもその時が来たことをわかっておられました。この世にお生まれになった目的を果たす時が来たのです。神がご計画された時に十字架の死を遂げるのです。この 11 章の出来事がきっかけとなって物事が進み始めました。偶然の出来事はひとつもありません。

もちろん、ラザロとマルタとマリヤは、すべてご計画どおりに進んでいるとは知り得ませんでした。イエスは時折、ご自身の身近にいる人たちが苦しみに遭うのを許されます。私たちが問うべきこと、そして課題とすべきことは、人生がめっちゃくちゃになっていくように思えるときに神が沈黙されても私たちは大丈夫だと神に信頼していただけるかです。そのようなとき、つらい苦しみに遭わせられるなら後の祝福はそれだけ大きいということを覚えておく必要があります。この後、ラザロの証によってたくさんの人たちがイエスを信じ、ユダヤ教指導者たちがイエスを殺したいと思うほどでした。(ヨハネ 12 : 10-11)

私たちも、21 節のマルタやマリヤのような気持ちになります。「主よ。もしここにいてくださったなら、私の兄弟は死ななかつたでしょうに。」つまり、どうしてもっと早く来てくださらなかつたのですか、ということです。神に助けを求めて祈っていても状況が悪化し、たいへんな災難に遭うこともあります。けれども、神は決して遅れません。神はすべてをあらかじめ詳細にわたってご計画しておられ、私たちの悲劇を勝利に変えることのできるお方です。

私たちの神は、人間には不可能なところに喜んで道を開いてくださいます。それは、神の働きのひとつの特徴です。神だけが栄光をお受けになるためです。聖書の随所でそれが見られます。神は私たちが不可能に思える状況に導き入れ、「しっかり立って、きょう、あなたがたのために行われる

【主】の救いを見なさい。」とおっしゃいます。わかりやすい例は出エジプト記 14 : 13-14 に記された紅海を渡る場面です。神はモーセと民を不可能な状況に導かれました。逃げ場はありません。そして神が、道のないところに道を開かれました。

## 2. イエスは深く気にかけておられる。(35節)

この箇所はよく、聖書で一番短い一節だと言われます。この短い一節に、聖書の大切な真理が示されています。

この一文は、私たちに起こる出来事をイエスが気にかけておられ、気持ちに共感し、私たちの痛みをご自身の痛みのように分かち合ってくださいることを教えてください。

イエスの涙を見た人たちの中には、涙の意味を誤解した人もいました。

ヨハネ 11:36 そこで、ユダヤ人たちは言った。「ご覧なさい。主はどんなに彼を愛しておられたことか。」

ラザロの死をイエスが悲しんでおられると思ったのです。けれども、イエスが泣いておられたのはそういう理由ではありません。イエスは最初からラザロをよみがえらせるおつもりだったし、そのことを弟子たちに話しておられました。ユダヤ人が考えたように、ラザロとの別れを悲しむ涙なら、それは偽りの涙になります。けれども、イエスは決して偽ったり間違ったりなさいません。この言葉の文脈に注意してみましょう。

11:33 そこでイエスは、彼女が泣き、彼女といっしょに来たユダヤ人たちも泣いているのをご覧になると、霊の憤りを覚え、心の動揺を感じて、

イエスが泣いておられたのは、彼らの悲しみを感じられたからです。これは、覚えておくべき非常に大切なポイントです。なぜなら、神は私たちの気持ちを知っておられるのに気にかけてくださらないと誤解しがちだからです。この場面でイエスが涙されたことの何より素晴らしい点は、まもなくマリヤも他の人たちも泣きやんで喜ぶとイエスは知っておられたにもかかわらず、彼らの悲しみに寄り添ってくださったことです。

私たちはつらいとき、私たちの苦しみや悲しみが一時的だと神は知っておられるから共感して下さるはずがない、と行ってしまいます。この箇所では、ほんの少しの時間でしたが、それでもなおイエスは彼らの悲しみをともに分かち合ってくださいました。

使徒 9:4 彼は地に倒れて、「サウロ、サウロ。なぜわたしを迫害するのか」という声を聞いた。

その声は、「なぜわたしの弟子を迫害するのか」とは言いませんでした。つまり、わたしの弟子にしていることは、わたしにしているのと同じだと言われたのです。

マタイ 25:40 すると、王は彼らに答えて言います。『まことに、あなたがたに告げます。あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、しかも最も小さい者たちのひとりにしたのは、わたしにしたのです。』

これは、最後の審判についてです。他の信仰者に対して行った善も悪も同じです。イエスを信じる信仰者に対する言動には気をつけなくてはなりません。イエスご自身にしていることになるからです。

マタイ 18 : 5-6

18:5 また、だれでも、このような子どものひとりを、わたしの名のゆえに受け入れる者は、わたしを受け入れるのです。

18:6 しかし、わたしを信じるこの小さい者たちのひとりにでもつまずきを与えるような者は、大きい石臼を首にかけられて、湖の深みでおぼれ死んだほうがましです。

これは、イエスが語られたことばの中でももっとも厳しく恐ろしい言葉です。一方、イエスを信じる信仰者の中で「小さい者」とされる人がどう扱われるかをイエスが深く気にかけておられることがわかります。

マタイ 10 : 29-31

10:29 二羽の雀は一アサリオンで売っているでしょう。しかし、そんな雀の一羽でも、あなたがたの父のお許しなしには地に落ちることはありません。

10:30 また、あなたがたの頭の毛さえも、みな数えられています。

10:31 だから恐れることはありません。あなたがたは、たくさんの雀よりもすぐれた者です。

クリスチャンになってしばらくは、人生を左右するような一大事で神の導きや助けを求めます。けれども、信仰の歩みを進めていくにつれ、日常の些細なことも神の御手の中にあると気づくようになります。これは、人生を変える一大事で神の働きを経験する以上に素晴らしい経験です。天地の創造主なる神が私たちの生活の細部にまでかかわってくださるとわかれば、神が私たちのことを気にかけてくださると実感できるようになります。信仰が成長するほどに、小さなこともすべて神の御手の中だと気づき、神のご配慮を知るようになります。髪の毛の本数を気にかけてくれる人が他にいるでしょうか。シャンプーするたびに髪は抜けますが、それでも神はその本数をご存知です。イエスがこの話をされた目的は、31 節に記されています。「10:31 だから恐れることはありません。あなたがたは、たくさんの雀よりもすぐれた者です。」

### 3. 永遠の栄光という約束 (40 節)

今日は、25 節から読み始めました。25 節でイエスは、「わたしは、よみがえりです。いのちです。」と明言しておられます。その直後に、ラザロを死からよみがえらせて、そのことを証明されました。そして 40 節でマルタに、「もしあなたが信じるなら、あなたは神の栄光を見る、とわたしは言ったではありませんか。」とおっしゃいました。イエスは変わらないお方ですから、今日、私たちひとりひとりに「もしあなたが信じるなら、あなたは神の栄光を見る」と語りかけておられます。イエスを信じる信仰者すべてにそう約束されたのです。

ヨハネ 17 : 20-22

**17:20** わたしは、ただこの人々のためだけでなく、彼らのことばによってわたしを信じる人々のためにもお願いします。

**17:21** それは、父よ、あなたがわたしにおられ、わたしがあなたにるように、彼らがみな一つとなるためです。また、彼らもわたしたちにおるようになるためです。そのことによって、あなたがわたしを遣わされたことを、世が信じるためなのです。

**17:22** またわたしは、あなたがわたしに下さった栄光を、彼らに与えました。それは、わたしたちが一つであるように、彼らも一つであるためです。

このイエスの祈りは、「大祭司の祈り」と呼ばれます。20節の内容は、使徒たちの証によってイエスを信じた人々、つまり今ここにいる私たちのために祈られたことは明らかです。イエスはここで、イエスを信じるすべての信徒のために祈っておられますが、イエスが何より信徒に求められる事柄が示されています。「またわたしは、あなたがわたしに下さった栄光を、彼らに与えました。それは、わたしたちが一つであるように、彼らも一つであるためです。」

イエスはここで、私たちに栄光を与えてくださったのは、御父とイエスがひとつであるように、私たちが皆ひとつとなるためだとおっしゃいました。御父とイエスのような完全な一致です。それこそ、イエスが神から遣わされたことのもっとも説得力ある証だと言われたのです。「あなたがわたしを遣わされたことを、世が信じるためなのです。」もしそれが何よりも信徒に求められることであって、もっとも説得力のあるイエスの証であるなら、イエスを信じる信仰者である私たちの最優先事項であるべきです。

国際的な教会は、イエスを証する特別な機会が与えられていると私は常々思っていました。文化や育ちの違う人たちが集まって、完全にひとつとなって主を礼拝できるなら、まるで天国を垣間見るようです。天国では、すべての国や民族の人が完全にひとつとなって礼拝します。ですから、今からそれに慣れておきましょう。国際的な教会はそれには最適な場所です。イエスは大いに栄光をお受けになり、人はイエスのもとへ導かれるでしょう。

ヨハネ **17:24** 父よ。お願いします。あなたがわたしに下さったものをわたしのいる所にわたしといっしょにおらせてください。あなたがわたしを世の始まる前から愛しておられたためにわたしに下さったわたしの栄光を、彼らが見るようになるためです。

イエスを信じる信仰者全員が、よみがえりの主の栄光を完全に見る日を待ち望めます。イエスがそう祈ってくださったのですから、必ずそうなります。イエスの祈りはすべて答えられます。

ヨハネ **11 : 41-42**

**11:41** そこで、彼らは石を取りのけた。イエスは目を上げて、言われた。「父よ。わたしの願いを聞いてくださったことを感謝いたします。

**11:42** わたしは、あなたがいつもわたしの願いを聞いてくださることを知っておりました。しかしわたしは、回りにいる群衆のために、この人々が、あなたがわたしをお遣わしになったことを信じるようになるために、こう申したのです。」

これは、イエスがラザロをよみがえらせる直前に祈られた祈りです。

## まとめ

ヨハネ第一 3:2 愛する者たち。私たちは、今すでに神の子どもです。後の状態はまだ明らかにされていません。しかし、キリストが現れたなら、私たちはキリストに似た者となることがわかっています。なぜならそのとき、私たちはキリストのありのままの姿を見るからです。

これは、私たちが皆、新しい復活の体を保証されているという意味です。イエスが復活されてから弟子たちに現された姿と同じような体です。新しい復活の体は、決して老いず、病気にもなりません。これは、福音の中心となる希望です。なぜなら、私たちは皆、イエスと直接顔を合わせ、イエスに似た者と変えられるからです。

これが、復活の希望であり、永遠の栄光の希望です。

イエスは今も変わらないお方です。そして、あなたにも私にも語っておられます。「もしあなたが信じるなら、あなたは神の栄光を見る、とわたしは言ったではありませんか。」